

[書 誌]

ジェンダーに関する国内参考文献 (2013年9月～2014年8月)

軽 部 恵 子

2013年9月から2014年8月までに出版されたジェンダーに関する国内参考文献の文献にはいくつかの傾向が見られる。第1に、国連女性差別撤廃条約に関する研究論文は、国際女性の地位協会（JAIWR）の年報『国際女性』に掲載されたものが圧倒的に多い。そもそも、JAIWRは条約の研究と普及を目的に1987年に設立された団体で、国連経済社会理事会で協議資格を持つNGOである。会員に研究者、国連職員出身者、弁護士などの実務家を抱え、執筆者の層が厚いため、これは当然の結果とも言えよう。毎年6月に開催される同協会の総会にはシンポジウムが続くが、そこでは国連の女性の人権に関する3つの主要な機関、すなわち国連総会第三委員会、経済社会理事会の機能委員会である女性の地位委員会（CSW）、および女性差別撤廃条約の監視委員会である女性差別撤廃委員会（CEDAW）の概況が報告されている。国連の女性およびジェンダーに関する動向を知る上で、非常に貴重な機会となっていることを強調したい。

第2に、スポーツと女性の分野で興味深い研究がいくつか見られた。2012年夏のロンドン五輪大会、2013年5月に発覚した、全日本柔道連盟の現職理事が複数の柔道女性選手に対して行ったとされるセクシュアル・ハラスメントなど、スポーツとジェンダーの問題に対し、社会の関心が集まっ

たことにもよるのだろう。スポーツにおける女性選手に対する指導者や指導的立場にある者によるセクシュアル・ハラスメントは、一部の研究者からは長年指摘されていた問題ではあるが、昨年にマスメディアが大々的に報道された意義は大きい。もちろん、事件のほとぼりが冷めた後も改革が続けられているかが重要である。

第3に、ワーク・ライフ・バランス（WLB）の研究が一層盛んになっている。この背景には、少子高齢化が急激に進む日本で、女性の活用が安倍晋三内閣によって叫ばれているが、依然としてWLBが実現しないことがあると言えよう。既に多くの識者が幾度となく指摘しているが、日本では依然として先進国で有数の長時間労働が続いていること、働きたい女性が幼い子どもを預ける施設が圧倒的に不足していることが、WLBの実現が進まない大きな理由の一部である。なお、WLBに関する政府の施策、意識調査などは、内閣府男女共同参画局（<http://www.gender.go.jp/>）または官邸ホームページに多数掲載されており、インターネットにアクセスできる人なら容易に閲覧できるので、参考文献に加えなかった。

ところで、評者はジェンダーに関する国内文献として、児童文学者で翻訳家の村岡花子（1893-1968）に関連した参考文献も取り上げた（この分野に限り、2013年9月以前に出版された書籍を含む）。2014年4月から9月の半年間、村岡をモデルにしたNHK朝の連続テレビ小説「花子とアン」が放送され、大変な人気を博した。これにより、『赤毛のアン』の作品自体もさることながら、村岡花子の生き方に大きな関心が集まった。

村岡はL. M. モンゴメリの『赤毛のアン』（原題 *Anne of Green Gables*）を日本で初めて1952年に紹介した人物だが、大同生命の創設者である広岡浅子が次世代のリーダーを養成するため、別荘で開いていた夏期講習に招待されていた1人でもあった。また、女流文学者たちや市川房枝とともに女性参政権運動に取り組み、戦後はエッセイ、人生相談、講演会などを通

ジェンダーに関する国内参考文献

じて、社会の改革に邁進した。詳細は、村岡の孫娘の1人で小説家の村岡恵理が著した『アンゆりかご：村岡花子の生涯』（新潮社、2011年）に詳しい。恵理は、祖母の人生を描くのに、当時の社会状況、とくに女性史を巧みに織り込んだので、同書は女性史の参考文献としても読み応えがある。

最後に、安中花子（安中は村岡花子の旧姓）が東洋英和女学校生時代に出会った「腹心の友」柳原燐子について触れたい。歌人の柳原白蓮（燐子）は、花子を歌人の佐佐木信綱に引き合わせた人物である。過去60年間、『赤毛のアン』は複数の翻訳者によって邦訳されたが、村岡訳が市販の本の9割以上を占めていると聞く。佐佐木門下で短歌の修業をした経験がリズム、語彙など、心地よい日本語訳文につながり、ひいては村岡版の人気に大きく貢献していると思われる。

華族に生まれた柳原燐子は、望まぬ結婚を2度も強いられた。2度目の夫は父親のような年齢で、一代で財を築いた「筑豊の炭坑王」伊藤伝右衛門であった。1921（大正10）年、燐子は年下の宮崎龍介（孫文を支援した宮崎滔天の息子の1人）と駈落ちし、夫との絶縁状を新聞紙上に発表した。刑法に姦通罪の規定があった時代に、当時の今上天皇の従妹にあたる女性が当事者の1人だったので、事件は世間から大いに注目された。

村岡花子が戦前から女性参政権運動に参加し、戦中戦後と女性の人生相談に関わってきたのは、親友のこのような境遇が少なからず影響を与えたのではないか。前出の『アンゆりかご』によると、花子は夫の後ろではなく、夫と手をつないで一緒に歩く、近所でも評判の仲の良い夫婦であったと言う。評者には、村岡夫妻がジェンダーの平等を実践してきたことを示す、象徴的なエピソードに思える。

ドラマの常として、柳原白蓮に関する事実関係はかなり脚色されている。事実とフィクションとの区別を付けるために、一般に容易に入手できる参

考文献を数点、村岡花子に関する参考文献の項に付け加えた。なお、林真理子『白蓮れんれん』（初版は中央公論新社、1995年）は、林が宮崎家から提供された白蓮と龍介の恋文700通を用いて著した興味深い作品だが、小説なのでここに含めなかったことを付記しておく。

1. 概論，ジェンダー平等，人権

阿部浩己『国際人権を生きる』信山社 2014年8月

——『国際法の人権化』信山社 2014年8月

伊藤公雄「男性にとってのジェンダー平等：男性学・男性性研究の視点から」『Peace and culture』6巻1号（2014年3月）

上野千鶴子『わたちのサバイバル作戦』文藝春秋 2013年9月

——『ニッポンが変わる，女が変える』中央公論新社 2013年10月

川口章『日本のジェンダーを考える』有斐閣 2013年9月

左古輝人「資料集 1980年代から2010年代までの『ジェンダー』：日本の定期刊行物における」『人文学報』482号（2014年3月）

申恵丰『国際人権法：国際基準のダイナミズムと国内法との協調』信山社 2013年10月

辻村みよ子『概説ジェンダーと法』信山社 2013年10月

中村正「男性性・男性問題をめぐる臨床社会学：親密な関係性研究に焦点づけて」『立命館産業社会論集』50巻1号（2014年6月）

2. 国連，ジェンダー，女性差別撤廃条約

今井雅子「解説（女性差別撤廃委員会 一般勧告第29とその解説）」『国際女性』27号（2013年12月）

近江美保「CEDAWの一般勧告・総括所見とクオータ制（特集 クオータ制）」『国際女性』27号（2013年12月）

ジェンダーに関する国内参考文献

- 川眞田嘉壽子「安全保障とジェンダー：安保理決議1325と国別行動計画の策定をめぐって（小特集 安全保障への国際法の視座）」『法律時報』86巻10号（2014年9月）
- 「国連の集団安全保障とジェンダー：安保理決議1325の意義と課題」『ジェンダーと法』vol. 11（2014年8月）
- 佐崎淳子「紛争・平和構築・女性：国連人口基金の活動より」『早稲田平和学研究』7号（2014年）
- 柴山恵美子「EU：平等な経済的自立のための戦略：先進的な男女均等待遇指令とクォータ制（特集 クォータ制）」『国際女性』27号（2013年12月）
- 鷺見八重子「第67回国連総会第三委員会報告」『国際女性』27号（2013年12月）
- 袖木康子「労働関連（特集 CEDAW 総括所見（2009年）の実施について：監視専門調査会による審議と JNNC）—（有識者ヒヤリング（JNNC）」『国際女性』27号（2013年12月）
- 永井よし子「全体的見地から（特集 CEDAW 総括所見（2009年）の実施について：監視専門調査会による審議と JNNC）—（有識者ヒヤリング（JNNC）」『国際女性』27号（2013年12月）
- 橋本ヒロ子「第57回国連婦人の地位委員会（CSW）報告」『国際女性』27号（2013年12月）
- 林陽子「国連女性差別撤廃委員会第53・54・55会期報告」『国際女性』27号（2013年12月）
- 矢澤澄子「『2020年30%』と政治分野におけるクォータ制：ジェンダー平等戦略としての第3次男女共同参画基本計画の推進に向けて（特集 クォータ制）」『国際女性』27号（2013年12月）
- 山下威士「『女性差別撤廃条約・選択議定書締約国レポート提出・審議状

況一覽』：掲載終了に当たって」『国際女性』27号（2013年12月）

山下泰子「監視専門調査会による審議の概要（特集 CEDAW 総括所見（2009年）の実施について：監視専門調査会による審議と JNNC）」『国際女性』27号（2013年12月）

——「選択議定書の早期批准（特集 CEDAW 総括所見（2009年）の実施について：監視専門調査会による審議と JNNC）—（有識者ヒヤリング（JNNC）」『国際女性』27号（2013年12月）

山下泰子・矢澤澄子・浅倉むつ子他「特集 CEDAW 第7・8次レポートに対する JAIWR のパブリックコメント CEDAW 報告に盛り込むべき事項・意見募集に対する JAIWR のパブリックコメント」『国際女性』27号（2013年12月）

3. 政治、クオータ制

有澤知子「ドイツとクオータ制（特集 クオータ制）」『国際女性』27号（2013年12月）

宇田川史子「アメリカ政治の『ガラスの天井』：2008年の大統領選挙とジェンダー」『東洋学園大学紀要』22号（2014年3月）

菊池啓一「アルゼンチンとクオータ制（特集 クオータ制）」『国際女性』27号（2013年12月）

クープ、ステファニー「コラム オーストラリアにおける女性差別：元首相ジュリア・ギラードが受けた取り扱いを事例として」『国際女性』27号（2013年12月）

申 琪榮「韓国とクオータ制（特集 クオータ制）」『国際女性』27号（2013年12月）

糠塚康江「フランスにおけるパリテ：女性の政治参画推進の技法（特集 クオータ制）」『国際女性』27号（2013年12月）

ジェンダーに関する国内参考文献

三浦まり「クオータ制と日本の課題（特集 クオータ制）」『国際女性』27号（2013年12月）

三井マリ子「クオータ制発祥の国ノルウェー（特集 クオータ制）」『国際女性』27号（2013年12月）

吉田仁美「アメリカとクオータ制（特集 クオータ制）」『国際女性』27号（2013年12月）

4. 教育、社会

赤澤淳子・後藤智子「小学生における基本的な生活習慣が自己統制および向社会的行動に及ぼす影響」『仁愛大学研究紀要 人間学部篇』12号（2014年3月）

伊佐夏実・知念渉「理系科目における学力と意欲のジェンダー差」『日本労働研究雑誌』56巻7号（2014年7月）

井野瀬久美恵「関係性で学ぶ『モラル』としての教養：学生アンケートから考える（特集 教養教育は何の役に立つのか？：ジェンダー視点からの問いかけ）」『学術の動向：SCJ フォーラム』19巻5号（2014年5月）

今井美樹「明治中期の専門料理人と『割烹熱心家』による食物・調理に関する研究会にみる男女両性の調理教育 第2報」『学苑』884号（2014年6月）

植木淳「教育とジェンダー：ジェンダー平等教育に関する憲法学的考察」『北九州市立大学法政論集』41巻3・4号（2014年3月）

掛水通子「ジェンダーの視点から見た女子体育教師の歴史」『女子体育』56巻8・9号（2014年8月）

加藤歩・岩田和男「服装から見えてくるジェンダー規範」『総合政策学会総合政策研究』16巻2号（2014年3月）

高峰修「スポーツにおけるセクシュアル・ハラスメントの問題：女性への

- 体育・スポーツ教育の視点から』『女子体育』56巻8・9号（2014年8月）
- 財部香枝「東アジアにおける女性学生の専攻分野に関するジェンダー分析：日本・韓国・台湾の比較をとおして」『貿易風：中部大学国際関係学部論集』9号（2014年4月）
- 姫岡とし子「教養教育とジェンダー史（特集 教養教育は何の役に立つのか？：ジェンダー視点からの問いかけ）」『学術の動向：SCJ フォーラム』19巻5号（2014年5月）
- 朴澤泰男「女子の大学進学率の地域格差：大学教育投資の便益に着目した説明の試み」『教育学研究』81巻1号（2014年3月）
- 朴木佳緒留「ジェンダー平等な職場づくりのための学習課題：職場慣行の『見える化』」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』7巻2号（2014年3月）
- 本田由紀『社会を結びなおす：教育・仕事・家族の連携へ』岩波書店 2014年6月
- 三成美保『『市民教養』としてのジェンダー法学：《共生》のための技法を学ぶ（特集 教養教育は何の役に立つのか？：ジェンダー視点からの問いかけ）」『学術の動向：SCJ フォーラム』19巻5号（2014年5月）

5. 結婚、家族、子ども

- 赤石千衣子『ひとり親家庭』岩波書店 2014年4月
- 阿部彩『子どもの貧困Ⅱ：解決策を考える』岩波書店 2014年1月
- 犬伏由子「夫婦同氏原則・婚外子相続差別規定に対する訴訟上の救済：司法の壁を崩すこと」『国際女性』27号（2013年12月）
- 猪熊弘子『「子育て」という政治：少子化なのになぜ待機児童が生まれるのか？』角川マガジズ 2014年7月
- 植山渚「女性と子ども『問題解決よろず相談所』をめざして（特集 第9

ジェンダーに関する国内参考文献

- 回地域人権問題全国研究集会（北九州市） 第5分科会テーマ ジェンダーフリー（女性が輝く社会）『地域と人権』361号（2014年5月）
- 大谷智恵「婚外子相続分差別に関する大阪高裁意見決定—大阪高裁2011（平成23）年8月24日決定—」『国際人権』No. 24（2013年10月）
- 大山典宏『生活保護 VS 子どもの貧困』PHP 研究所 2013年11月
- 加藤直子「外国人妻に向けられるジェンダー・バイアス：我が国の国際離婚裁判例の分析から」『ジェンダー研究』17巻（2014年3月）
- 神原文子『子づれシングルと子どもたち：ひとり親家族で育つ子どもたちの生活実態』明石書店 2014年3月
- 北明美「社会政策の結節点としての児童手当制度とジェンダー（＜特集＞ジェンダー平等と社会政策）」『社会政策』5巻3号（2014年3月）
- 田中淳子「民法の婚外子差別規定に関する違憲決定・コメント—大阪高裁2011（平成23）年8月24日決定—」『国際人権』No. 24（2013年10月）
- 中村恵「ハーグ条約：国際的な子の奪取の民事上の側面に関する1980年10月25日の条約」『国際女性』27号（2013年12月）
- 平山洋介「住宅政策とジェンダー（特集 女性の貧困と住まい）」『住宅会議』91号（2014年6月）
- 松本洋人『子育て支援の社会学：社会化のジレンマと家族の変容』新泉社 2013年10月
- 柳本祐加子「家族（婚姻）、性暴力、ジェンダー平等」『Chukyo lawyer』20号（2014年3月）
- 山田昌弘『「家族」難民：生涯未婚率25%社会の衝撃』朝日新聞出版 2014年1月
- 湯川亜紀子「アニメ・マンガにみる家族表象とジェンダー問題」『Peace and culture』6巻1号（2014年3月）

6. 経済, 労働, ワーク・ライフ・バランス, 社会保障, 社会福祉

荒木葉子「働く女性とがん：ジェンダーを考えた対策について」『労働の科学』69巻6号（2014年6月）

石田久仁子・井上たか子・神尾真知子他『フランスのワーク・ライフ・バランス男女平等政策入門：EU, フランスから日本へ』パド・ウィメンズ・オフィス 2013年12月

遠藤公嗣「労働における格差と公正：『1960年代型日本システム』から新しい社会システムへの転換をめざして（〈特集〉ジェンダー平等と社会政策）」『社会政策』5巻3号（2014年3月）

呉英蘭・朴光駿「社会政策プログラム導入の国際的要因とその事例」『福祉教育開発センター紀要』11号（2014年3月）

経済産業省監修『ホホワイト企業：女性が本当に安心して働ける社会』文藝春秋 2013年11月

小室淑恵『子育てがプラスを生む：「逆転」仕事術 産休・復帰・両立, すべてが不安なあなたへ』朝日新聞出版 2014年1月

佐藤千登勢『アメリカの福祉改革とジェンダー：「福祉から就労へ」は成功したのか?』彩流社 2014年6月

島原三枝「介護問題の構築：ジェンダー秩序によるケアの分配」『人間社会学研究集録』9号（2014年3月）

高橋美恵子「ジェンダーの視点から見る日本のワーク・ファミリー・バランス：EU 諸国との比較考察」『フォーラム現代社会学』第14号（2014年5月）

竹信三恵子「アベノミクスが目指す女性の徹底利用」『社会民主』711号（2014年8月）

——『家事労働ハラスメント：生きづらさの根にあるもの』岩波書店 2013年10月

ジェンダーに関する国内参考文献

中野円佳『「育休世代」のジレンマ：女性活用はなぜ失敗するのか?』光文社 2014年9月

西川清之「女性の管理職比率と『日本的雇用慣行』：ダイバーシティ・マネジメントの視点から」『龍谷大学経営学論集』53巻2号（2014年1月）

三橋弘次「なぜ『女性』が組織で活躍できないのか：J. Ackerの『ジェンダー化された組織』論を導き手として」『立正大学文学部論叢』137号（2014年3月）

吉中季子「ベヴァリッジ報告とジェンダー：社会保障構想にみられるイギリスと日本の主婦」『名寄市立大学社会福祉学科研究紀要』3号（2014年3月）

Frey, Urszula「ワーク・ライフ・バランスのための非ジェンダー的法律が、いかにジェンダー的効果を生んだか：20世紀最後の四半世紀におけるベルギーのタイムクレジット制度とキャリアブレイク制度、およびそれらが女性のライフスタイルに及ぼした影響について」『社会システム研究』17号（2014年3月）

7. 性と犯罪、性暴力、セクシュアル・ハラスメント

岩井宜子「基調講演 ジェンダー被害者学の必要性」『被害者学研究』24号（2014年3月）

大阪弁護士会人権擁護委員会性暴力被害検討プロジェクトチーム編『性暴力と刑事司法』信山社 2014年3月

加茂登志子「職場のセクシュアル・ハラスメント被害女性の精神健康障害について」『ジェンダーと法』vol. 11（2014年8月）

A. ジェンキンス著、信田さよ子・高橋嘉之訳『加害者臨床の可能性：DV・虐待・性暴力被害者に責任をとるために』日本評論社 2014年6月

角田由紀子『性と法律：変わったこと、変えたいこと』岩波書店 2013年

12月

—— 「セクシュアル・ハラスメント：福岡裁判から24年目の到達点」

『ジェンダーと法』 vol. 11 (2014年8月)

『現代思想』2013年11月号「特集 ハラスメント社会 セクハラ・パワハラ・アカハラ・マタハラ……」青土社 2013年10月

田中嘉寿子『性犯罪・児童虐待捜査ハンドブック』立花書房 2014年1月

柳本祐加子「家族（婚姻）、性暴力、ジェンダー平等」『Chukyo lawyer』20号 (2014年3月)

8. セクシュアリティ

猪瀬優理「ジェンダー・セクシュアリティの観点からみた水子供養」『宗教研究 別冊』87号 (2014年3月)

大川玲子「性および性医学におけるジェンダー偏見が女性のセクシュアリティにおよぼすもの」『季刊 Sexuality』66号 (2014年4月)

大越愛子・倉橋耕平『ジェンダーとセクシュアリティ：現代社会に育つまなざし』昭和堂 2013年12月

萩野美穂『女のからだ：フェミニズム以後』岩波書店 2014年3月

9. 歴史、戦争、自然災害

岡野八代『『慰安婦』問題が突き付けた、安全保障問題：『安全保障』から『平和』へ』『ジェンダーと法』 vol. 11 (2014年8月)

清末愛砂『『対テロ』戦争と女性の均質化：アフガニスタンにみる〈女性解放〉という陥穽』『ジェンダーと法』 vol. 11 (2014年8月)

小浜正子「アジア史をジェンダーから見る：『慰安婦』問題の位相（特集 教養教育は何の役に立つのか？：ジェンダー視点からの問いかけ）」『学術の動向：SCJ フォーラム』19巻5号 (2014年5月)

ジェンダーに関する国内参考文献

三成美保・姫岡とし子・小浜正子編『ジェンダーから見た世界史：歴史を読み替える』大月書店 2014年5月

皆川満寿美「ニュースをよみとく (18) 被災地復興とジェンダー平等」
『女性の安全と健康のための支援教育センター通信』41号 (2014年5月)
若尾典子「軍事基地とジェンダー：在沖米軍基地と女性の経験から」『ジェンダーと法』vol. 11 (2014年8月)

10. 『赤毛のアン』, 村岡花子, 柳原白蓮 (宮崎燐子)

(1) 『赤毛のアン』と村岡花子

赤松佳子「刊行百周年を機に読み直す『赤毛のアン』」『奈良女子大学文学部研究教育年報』「特集1：ジェンダーと言語文化—少女・小説・ジェンダー」第6号 (2009年12月)

小倉千加子『「赤毛のアン」の秘密』岩波書店 2014年3月

小泉和子編『少女たちの昭和』河出書房新社 2013年6月

桂宥子・白井純子編著『赤毛のアン』シリーズもっと知りたい名作の世界
10 ミネルヴァ書房, 2008年7月

「カナダ婦人宣教師物語」編集委員会『カナダ婦人宣教師物語』東洋英和女学院 2010年2月

高田賢一編著『若草物語』シリーズもっと知りたい名作の世界1 ミネルヴァ書房 2006年2月

菱田信彦『快読「赤毛のアン」』彩流社 2014年5月

村岡恵理『アンのゆりかご：村岡花子の生涯』新潮社 2011年9月

村岡恵理監修『[総特集] 村岡花子：「赤毛のアン」の翻訳家, 女性にエールを送りつづけた評論家』KAWADE 夢ムック 文藝別冊 河出書房新社 2014年3月

村岡恵理監修, 内田静枝編『村岡花子の世界：赤毛のアンとともに生きて』

河出書房新社 2014年4月

村岡恵理責任編集『村岡花子と赤毛のアンの世界』河出書房新社 2013年
3月

村岡恵理編『花子とアンへの道：本が好き，仕事が好き，ひとが好き』新
潮社 2014年3月

村岡花子『村岡花子エッセイ集：想像の翼にのって』河出書房新社 2014
年7月

——『村岡花子エッセイ集：腹心の友たちへ』河出書房新社 2014年
2月

——『村岡花子エッセイ集：曲り角のその先に』河出書房新社 2014
年4月

(2) 柳原白蓮

井上洋子『柳原白蓮』西日本人物誌20 西日本新聞社 2011年10月

馬場あき子『流転の歌人 柳原白蓮：紡がれた短歌とその生涯』NHK 出
版 2014年8月

宮崎蒞苺監修『白蓮：気高く，純粹に。時代を翔けた愛の生涯』河出書房
新社 2014年8月

宮崎蒞苺著，山本晃一編『娘が語る白蓮』河出書房新社 2014年8月

柳原白蓮『白蓮自叙伝：荊棘の実』河出書房新社 2014年8月

以 上